

第1日 (8月23日)

NELHA (自然エネルギー研究所) → カロコ・ホノコハウ国立公園 → ウクレレショップ → UCCコナ・コーヒー農園 → ルアウ&フラ ハワイアンショー



1 枚目は、海の水温差を利用した発電施設。ハワイ州の再生エネルギー利用率は50%を超えている。地熱、太陽光、水温差などを利用している。  
 6 枚目は、ポイと呼ばれるタロイモのお餅。ネイティブ・ハワイアの伝統的な食事のひとつ。

第2日 (8月24日)

プウコホラ・ヘイアウ国立公園 → ワイピオ渓谷 → ホノカア・タウン → ハプナ・ビーチ → マウナラニ・ペトログリフ



2～3 枚目のワイピオ渓谷は、ネイティブ・ハワイア人が伝統的な生活を残し続けてきた、大切な聖地。人々は、ここで自然とともに暮らしてきた生活から自然との共存、文化の保全を学ぶ。しかし、観光客が入るには、あまりにも険しい坂道があり、4WDの爆音を鳴り響かせながら入り込むしかない。観光と保全の関係をどのように築くかが課題である。

第3日 (8月25日)

ヒロ・ファーマーズマーケット → 太平洋津波博物館 → モクオラ → イミロア天文学センター → 火山国立公園



1 枚目の写真は、マウナケア山頂に新しく建設することを決めたハワイ州政府に反対し、入口を封鎖する抗議活動。ネイティブ・ハワイアの聖地に、最新の観測基地を建設することをどう考えるか？  
 6 枚目の写真は、イミロア天文学センター。タヒチから約4,000kmをアウトリガーカヌーで渡ってきたハワイ先住民の歴史を学ぶことができる。宇宙研究とともに、先住民の天体の知識を学ぶ貴重な施設である。  
 7 枚目の写真は、キラウエア火山のハレマウマウ火口。あいにくの雨で全景は観測できなかった。2018年に活発に活動し、多くの犠牲と被害を出したニュースは大きく取り扱われたが、収束した今も観光客は帰ってきていない。

第4日 (8月26日)

内田ファーム → プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園 → アフエナ・ヘイアウ



1 枚目の写真は、1920年代のコーヒー農家を復元した内田ファームを経営するジムさんとエツコさん。収穫期になると、午前2時30分から午後10時まで、コーヒーの収穫、豆の処理に追われていた。日系移民が作りあげたコーヒー栽培の努力が、ハワイ州では色濃く認められている。  
 2～3 枚目は、国立歴史公園に保存されているヘイアウとハワイの神像。ハワイ王族が大切にしていた場所である。

1

AHUPUAA

Theater223  
**アフプアア**  
 ~traveling with you~

T 鳥取県立鳥取西高等学校 村岡優菜 木村理瑠

AHUPUAA

アフプアアとは

T カゴ 本郷公園国立歴史公園 リーフレットより

3

AHUPUAA

**制作意図**  
 事前学習・現地取材を通して

T

4

AHUPUAA

**「ハワイ島」と「観光」のイメージ転換**

T

5

AHUPUAA

**I 持続可能性**

- ・豊かな自然資源
- ・古代ハワイアン生活  
→持続可能な暮らし
- ・伝統文化の復興・発展

T

6

AHUPUAA

**II 若者のニーズに対応**

- ・伝統文化に興味 **50%** ]新しい関心
- ・アフプアアの認知度 **3%**
- ・アクティビティがしたい **81%**  
 EX 乗馬体験 カヌー体験 タロイモ栽培体験

T

ホロホロアイランドツアーズ HPより

7

AHUPUAA

**III 現地住民の声**

「尊敬の念」を伴った観光  
 ↓  
 責任ある観光者としての自覚

T

12

HAUPOO IS THE BEST  
 DON'T DRIVE LIKE A WOLF

8

AHUPUAA

**あなたはまだハワイ島の本当の魅力を知らない。**

T

9

AHUPUA'A

**動画構成・工夫点**  
「本当の魅力」を伝えるために

T

10

映画風

**予告編**  
従来のハワイ島のイメージ

**本編**  
①アププアアとは  
②現地住民の声  
③アププアアの観光スポット

AHUPUA'A

T

11

AHUPUA'A

**予告編**  
当来のハワイ島イメージ

- ビーチ
- ロコモコ
- コーヒー
- ウクレレ etc.

T

12

AHUPUA'A

**本編**  
①アププアアとは  
→物語を語るように  
→イラスト風写真

T

13

AHUPUA'A

**本編**  
②現地住民の声  
•インタビューの様子  
→日本語字幕

T

14

AHUPUA'A

**本編**  
③アププアア観光のスポット  
•一緒に旅をしている感覚  
•セリフ：五感・アクティビティ情報・日常性  
•ハッシュタグで要点まとめ

T

15

AHUPUA'A

あなたはまだハワイ島の本当の魅力を知らない。

T

16

AHUPUA'A

ありがとう  
ございました。

T

## 【観光甲子園アウトバウンド部門・グランプリ】鳥取西高等学校

「観光甲子園」の愛称で知られる「全国高等学校グローバル観光コンテスト」。今回新たに新設されたアウトバウンド部門では、たくさんの応募から書類審査を通過した5チームが、昨年の8月にハワイ島での取材旅行を実施。その内容をまとめた動画とプレゼンテーションを、2020年1月26日に開催された決勝大会のステージで披露しました。今回はグランプリを受賞した、鳥取西高等学校の皆さんにお話を伺いました。



<この記事をもとめると>

- 1.最初は「ハワイに行きたい!」という気持ちで大会に参加
- 2.準備や取材を通して、観光の問題や未来を深く考えるようになった
- 3.周囲からの協力も得て、決勝大会では見事な動画&プレゼンを披露

### ハワイ島で実際に取材旅行を行い、5チームが決勝大会へ

観光甲子園には、世界から日本へ観光客を呼び込むための「インバウンド部門」と、日本から世界へ目を向けた「アウトバウンド部門」があります。今回ご紹介するアウトバウンド部門のテーマは、「知的冒険の島・ハワイで次世代観光の可能性を探れ!」。決勝大会では、昨年夏にハワイ島で行なった取材旅行の内容を動画にまとめ、プレゼンテーションと共に披露します。

5チームの中からグランプリに選ばれた作品は、鳥取西高等学校の「Theater223 アフプアア」です。予告編と本編の2部構成にした映画仕立ての動画で、キーフレーズとなるのは「あなたはまだハワイ島の本当の魅力を知らない」。予告編ではビーチやロコモコなど「ハワイ島=海の楽園」という従来のイメージを紹介。そして本編では知られざる古代ハワイアン「アフプアア」を紹介するという二重構造で、ハワイ島の新しい魅力を打ち出しました。

### 【Theater223 アフプアア】

動画はもちろんプレゼンテーションでも、観客の心に訴えかける素晴らしい発表を行っていたのが、村岡優菜さんと木村理瑞さんです。今回はそんなお二人に、大会への道のりや動画の制作秘話を伺いました。

## 観光者のニーズと現地住民の思いを融合した「持続可能な観光」

—— 受賞された感想をお聞かせください。

木村：決勝大会を迎えるまで、放課後も土日もずっと二人で準備を重ねてきました。その途中で「果たしてこれでいけるのだろうか」と悩んだり、良い案が出なくて困ったり、どうしようかと思うこともあって……。でもそんな時は、先生方に聞いたり友達の助けを借りたりして乗り越えられたので、その人たちにも恩返しができるような気がしますし、何より自分たちのやってきたことがこうして形になってうれしいです。

村岡：最初は周りからも「厳しいんじゃないか」と言われていたし、私たち二人も正直あまり自信がなくて、書類審査を通してハワイに行けただけでも大喜びでした。まさかグランプリをいただけるとは思っていなかったのですが、今はまだ実感がわきませんが、すごくありがたい気持ちです。

—— 受賞できた一番の要因は何だと思えますか？

木村：テーマを決めるにあたって、「これからの観光業はどうあるべきか」ということを、とにかく考えました。その結果、私たちが提唱したのが「持続可能な観光」です。そこを評価していただけたのかなと思います。



(優勝を喜び合う二人)

—— 今回の動画を作られた経緯を教えてください。

木村：私たちが観光甲子園を知ったきっかけは、校内の掲示板上に貼ってあった1枚のチラシでした。アウトバウンド部門では、書類審査を通過するとハワイ島での取材旅行ができると知って、最初は「ハワイに行ってみたい！」くらいの気持ちから始まりました(笑)。

村岡：元々は私たち個人の思いからスタートしたのですが、先生にその話をしたら「サポートするよ」と言ってくださって。それから準備を進めるうちに、部活という形をとっていただくようにもなりました。また動画のナレーションには演劇部の同級生が出演してくれるなど、協力してくれたみんなには本当に感謝しています。

—— **動画に込めたこだわりを教えてください。**

木村：「観光者はお客様ではなく、現地住民と同じ共同体としての自覚を持って観光をしてほしい」と私たちは思います。観光者も現地に対する尊敬の念を忘れないことが大切で、それを皆さんに知ってもらいたいなと思っています。

村岡：ハワイ島での取材を通じて、現地の方から直接伺った「私たちの土地や文化、人々に尊敬の念を持ってほしい」という言葉は、とても印象的でした。また、これはハワイ島だけではなく、観光地に対するイメージが強すぎて固定概念に縛られるのはすごくもったいないと思います。従来のイメージにとらわれず、それぞれの観光地にはいろんな魅力があるということを観光者自身が探してほしいし、発信していけたらいいなと思いました。

—— **大会に向けての準備と、大変だったところを教えてください。**

村岡：まず最初の書類審査で、テーマを考えるのが大変でした。日本の若者がハワイへの旅行で求めていることと、現地の住民の皆さんが求めていることは、きっと違うのではないかと思ったのです。日本の若者にアンケートをとると、どうしても「ハワイといえばフラやビーチ！」という回答が多くなります。しかしそれはハワイの魅力の一部であり、現地の方はそんな状況をどう捉えているのだろう。観光者のニーズと現地の方の思い、どちらを重視するべきかという葛藤があり、両立できるプランはないかとすごく悩んだ結果、辿り着いた答えが「アフプアア」でした。

木村：「アフプアア」とは古代ハワイアンたちが、漁猟や採集をしながら暮らしていた生活空間のことです。これを題材にした理由の1つは、彼らの生活や文化から持続可能性を学べるということ。もう1つは、伝統文化やアクティビティに興味を持つ若者のニーズに対応できること。そして実際の取材で感じた「観光者は現地に対する尊敬の念を忘れず、責任ある観光者になるべきだ」という思いを込めました。

**「みんなで作り上げた作品」が受賞した喜び**

—— **大会全体を通じた感想を教えてください。**

木村：動画やプレゼンテーションを仕上げるまでには、私たち二人だけではなく、学校の先生や友達などたくさんの人たちが協力してくれました。だからこの作品は、みんなで作り上げたものだと思います。また、この大会で初めてハワイ島に行くことができましたが、「みんな一生に一度は行くべき！」と思うくらい、本当に素敵なおとこでした。私は波の音や現地の音楽など、そこにいるだけで落ち着いて癒されるような「音」がすごく良いなと感じたのですが、そうしたことは現地を訪れてみないと分からないし、それが旅の醍醐味だと思います。

村岡：ハワイ島では美しい自然はもちろん、現地の方々の優しさも心に残っています。そして取材を経て決勝大会が行われた今日まで、私たちはとても長い時間をかけて準備をしてきました。その結果、こうしてグランプリをいただけたことを本当にうれしく思っていますが、その反面、これで終わってしまうと思うと寂しくもあります。

―― **将来の夢や目標があれば教えてください。**

木村：私は外国が好きで、いろんな国に興味があります。今はまだ、どんな仕事を指すかはっきり決めてはいませんが、いつか世界中を回るのが夢です。

村岡：私はいま、国際関係全般に興味を持っています。今回の大会を通じてたくさんのことを学ぶことができましたが、その中でも「観光」と「環境」という2つのことを深く考えられたので、将来はそれらに関わる仕事に就きたいと思っています。

(まとめ)

決勝大会の本番では、分かりやすく説得力のあるプレゼンテーションを披露してくれたお二人。発表終了後、顧問の先生にもお話を伺うと「リハーサルや学校で練習したとき以上の、本当に素晴らしいパフォーマンスでした」とおっしゃっていました。今回の決勝大会で上映された映像を見て、ハワイ観光の魅力を感じてみてはいかがでしょうか。

**【profile】**

鳥取西高等学校

村岡優菜(2年生)、木村理瑞(2年生)

マイナビ提供「進路のミカタweb」より

## (5) JICA中国 高校生国際協力体験プログラム 参加報告

(日程) 2019年7月27日(土)～28日(日)

(会場) JICA中国(広島県東広島市)

(参加者) 本校生徒2年生3名 引率教員1名 (全体では22校44名の生徒が参加)

(概要)

JICA中国主宰で毎年中国5県の高校生が参加しておこなわれている体験プログラムに、今年度初めて本校生徒が参加した。世界で起こっている諸問題に対して自分たちに何ができるかという観点から、JICAのおこなう青年海外協力隊等の活動やSDGsについて学んだうえで、参加者同士で協力して難民支援のアクションプラン策定を実行した。日本の高校生の生活も世界とつながっていること、世界の中でできることがあると強く意識することができるプログラムであった。

(実施内容)

1日目

- ・開会・自己紹介
- ・アイスブレイク、JICA事業の説明
- ・ワークショップ「SDGsとは」カードゲームで学ぶ
- ・ワークショップ「難民とは」日本在住インドシナ難民・支援者の話を聞く
- ・夕食後、JICA研修員参加の交流

2日目

- ・ワークショップ「いのちの持ち物けんさ」および難民に関する学習
- ・アクションプラン策定 4人の難民役にインタビュー実施し支援プランを策定する
- ・ワールドカフェ形式での発表
- ・閉会・写真撮影

(参加生徒の感想)

2年5組 荒木万弥

難民、貧困、内戦・・・と、開発途上国が抱える問題は多い。そういった問題は、日本に住む自分には、関係がないことだと思っていた。しかし、この2日間を通してそれは間違いだということに気付いた。「難民という民族はいない、難民という状況だ」スタッフの方がそうおっしゃった。裕福な暮らしを送っていても、いつ難民になるかわからない。私たちは、もしも自分が難民になったら、と想像して意見を交換し合い、「自分事」として考えることの大切さを学んだ。

日本で難民として生活してきた方にお話を聞いたことも印象に残っている。日本人からの差別やいじめがあったことを知り、悲しく、日本人として恥ずかしいと思った。自分にはどのような関わりができるだろう。

普段会うこともない他校生たちと一緒に活動できたこともとても貴重な経験になった。活動の中では、積極的に意見を出し合い、自身の考えを深めることができた。また、会話を楽しむ中で、学校の様子や頑張っていることの話聞いて、よい刺激をもらった。

あっという間の二日間。SDGsや世界の問題、JICA事業についてなど、沢山のことを知り、考えた、濃い二日間となった。沢山の方々の協力があって、このプログラムが行われたことを忘れずに、感謝したい。



## 6 「著者と語る」講演会 実施記録

- 1 日時 事前学習 令和元年 9月11日(水) 8限  
講演・質問会 令和元年 9月19日(木) 13:30~15:45
- 2 目的 各界の第一線で活躍している著者と直接対話することで、現代社会の抱える課題について考えを深め、知的刺激を受けるとともに、社会の一員としての責務を自覚するきっかけとする。
- 3 実施内容 事前学習では全校生徒が講師の著書を読み、そこから出た疑問をもとにして質問を用意し講演会に臨む。講演会当日は講師による講演の後、生徒スタッフの進行による質問会を設けて深い対話の機会をもつ。
- 4 講演内容 演題「地球温暖化は解決できるのか ～パリ協定から未来へ～」  
講師 小西 雅子 氏 (WWF (世界自然保護基金) ジャパン専門ディレクター)
- 5 対象生徒 全校生徒 (講演会、質問会進行は生徒スタッフ)

### 6 生徒スタッフの活動

#### 【役割】

- ① 質問者6名 (質問会の進行・パネリスト)
- ② 案内係2名 (講師の案内、誘導)
- ③ ポスター係5名 (教室掲示用ポスターの作成)
- ④ 謝辞・花束係2名 (講師への謝辞、花束贈呈)
- ⑤ 受付係2名 (当日来場者の受付)
- ⑥ 撮影係2名 (記録用写真の撮影)
- ⑦ 司会者2名 (講演会全体の司会進行)

※ この他、生徒配布資料作成、図書館での書籍紹介を図書委員会生徒が担当。

### 7 事前学習

#### 【使用図書・映像】

小西雅子, 2016, 『地球温暖化は解決できるのか パリ協定から未来へ!』(岩波ジュニア新書)

P56~67 「考えてみよう 世界各国が公平感をもって温暖化対策に取り組むには?」

「考えてみよう すべての国が参加する温暖化条約にするには?」

動画「7分でわかるパリ協定」(2016年 WWF Japan)

#### 【学習活動内容】

各ホームルームでの総合的な学習・探究の時間において、全校生徒に上記の配布資料および次ページのワークシートを配布し、動画を視聴して学習をすすめた。著者への質問については、全校から挙げられた回答から生徒スタッフが抜粋し、内容を整理して質問会に臨んだ。

【ワークシート】

**個人用**

令和元年度「著者と語る講演会」事前学習  
9月11日（水）8限

年 組 氏名
--------

小西種子/著『地球温暖化は解決できるのか パリ協定から未来へ!』を読んで考える

1. 動画「7分でわかるパリ協定」を視聴し、パリ協定の内容・特徴などわかったことをメモしてください。

メモ欄

2. 配布した文は上述した小西種子さんの著作から一部を抜粋したものです。

ここでは、2015年の国連会議COP21においてパリ協定が合意に至るまでの各国間での経緯や交渉内容について述べられています。大切だと思った部分・疑問を持った部分に線を引きながら全文を読み進めてください。そのうえで、以下の2つの設問から1つを選び、自分なりの考えを述べてください。  
(時間があれば両方の設問に対して答えてもらってもかまいません。)

(設問1) P56～60を読んだうえで、先進国・新興国・後発発展途上国など各国の状況や立場が異なる中で世界的に二酸化炭素を削減する取り組みをする際に、公平性を確保していくにはどうすればよいか、あなたの考えを述べてください。

.....

.....

.....

(設問2) P66～68を読んだうえで、「強い条約ほどいいが、強いと参加国が減ってしまう」というジレンマを乗り越え、多くの参加国を得て、なおかつ強い拘束力をもつ条約にするためにはどうすればよいか、あなたの考えを述べてください。

.....

.....

.....

3. 著者の小西種子さんに質問してみたいことを書きましょう。

(複数可。今回読んだ内容に関するものに限らず、パリ協定・温暖化・エネルギー問題などに関して)

.....

.....

.....

## 8 当日の様子

### 第1部 講演会（60分間）

小西先生の講演では、まず、現在おこっている酷暑や災害などの背景に化石燃料の使用による地球温暖化があるという基本的な話を具体的なデータから説明され、さらにこの状況が続いた場合に近未来の地球がどうなっていくかという危機について語られた。そして、「世界の平均気温上昇を二度未満に抑える目的で、今世紀後半には人間活動による温室効果ガス排出量を実質的にゼロにしていく」という画期的内容のパリ協定に関する解説をされた。これから先は、パリ協定に基づいて大胆なエネルギー改革が必要であること、私たちにはパリ協定の実現のため新たな政治・社会システムを主体的に作り上げていくことが求められているのだと実感できる内容であった。

### 第2部 質問会（45分間）

講演会に向けて全校で取り組んだ事前学習から出てきた意見を、実行委員会の生徒たちが検討を重ねて質問化し、ステージ上で小西先生に直接答えていただくという内容でおこなわれた。例として、以下のようなやり取りがあった。

生徒「二酸化炭素の排出をゼロにしなければならないと思いますが、そのために私たちは何をすべきでしょうか。例えば、マイバック持参や空調の温度調節などの個人的な小さなことでも意味があるのでしょうか？」

小西先生「マイバッグ、マイ箸の使用というレベルでは足りない。これから先のパリ協定の時代の中で、どういった選択をしていくのかが重要で、みなさんのような若い人には今できることだけでなく、将来社会に出てから何ができるのかを考えてほしい。また、日本の国内だけでなく、留学などの経験をして、世界の風を感じてほしい」

この他にも炭素税、米トランプ政権に関することや人々の意識向上、経済発展との関係など多岐にわたる質問に答えていただいた。

### 生徒の感想抜粋

- 地球温暖化に関すること以外にもたくさんのことを学べた。「今の社会では商品を生産することだけが経済の全てではなく、各国の経済をGDPで測ることがそもそも時代遅れだ」という言葉にとっても納得した。
- 小西先生の「私たちには将来の地球を選択することができる」という言葉がととても心に残った。「現在が良ければよい」という考えは、「将来この地球に住むという幸せを捨てる」という選択をしているのと同じではないかと感じた。
- 特に印象に残ったのは「この問題の捉え方はポジティブでもよい」というお話です。答えがない問題だったとしても、その難しさからチャンスを見出せるという考え方はとても素敵だと思いました。

この講演会をきっかけとしてWWF ジャパンとのさらなる連携がはかられ、1月にはエネルギーに関する特別授業を実施していただくこともできた。今後もユネスコスクールとしてESDを促進していくうえで、こういった団体との連携を強化していきたい。

## 7 外国語によるコミュニケーション能力・論理的思考力の向上のための授業研究

### 2019年度の研究概要

1. 各学年で年間の到達目標（4技能別）及び短期目標の提示を行い、スピーキングやライティングのパフォーマンステストを定期的に行う。
2. 授業指導案の研究を行い、より思考を深める授業を実施する。
3. アクティブラーニングについて、外部より講師を招いて授業改善に向けた校内教科研修を行う。

#### 1. パフォーマンステスト実施状況

1年	前期中間 前期末 後期中間 学年末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセイライティング【英表Ⅰ】自分の住んでいる所</li> <li>・Show and Tell【英表Ⅰ】</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅰ】身近な社会問題</li> <li>・ディスカッション【英表Ⅰ】</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅰ】グラフ描写</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅰ】過去に対する反実仮想</li> </ul>
2年	前期中間 前期末 後期中間 学年末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセイライティング【英表Ⅱ】手紙文の完成、賛否両論のあるトピック</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅱ】手紙文の完成、賛否両論のあるトピック</li> <li>・ポスタープレゼンテーション【英表Ⅱ】New Smartphone APPの提案</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅱ】社会的・国際的なトピック</li> <li>・ミニディベート【英表Ⅱ】社会的・国際的なトピック</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅱ】社会的・国際的なトピック</li> </ul>
3年	前期中間 前期末 後期中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセイライティング【英表Ⅱ】賛否両論のあるトピック</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅱ】自己の体験</li> <li>・エッセイライティング【英表Ⅱ】社会的・国際的なトピック</li> </ul>

ループリックを用いたエッセイ・ライティングを実施し、返却の際にはフィードバックを行っている。また、授業内に他の生徒と作品を読み合うなどのピアチェックも行っており、教員・生徒ともにループリックを用いたスピーキング・ライティング評価が定着している。1年間・3年間の見通しを持って計画的に指導しながらも、生徒の学習到達度を分析しながら柔軟な指導を心掛けている。

#### 2. 授業指導案研究

1つの授業モデルを英語科教員で検討、作成に取り組んだ。この活動が、英語指導において何が求められているかを互いに共有し、到達目標を設定する一助となった。また、この研究をもとに、教科書の各レッスンでどのような力をつけることができるか、どのように授業を進めるべきかを考察し、その後の授業に活かすことができた。

#### 3. アクティブラーニング研修

今年度は「バックワードデザインで授業計画を行う」をテーマに据え、関西外国語大学より中嶋洋一先生を講師に迎え、午前中にコミュニケーション英語Ⅰ、英語表現Ⅱと2種類の授業を中嶋先生に参観して頂き、午後はそれらの授業に対するフィードバックを頂きながら本校英語教員が講義を受ける形をとった。英語教育（大修館）の本年度4月号にも中嶋先生が寄稿されているが、その本のサブタイトルにもなっていた「バックワードデザイン」をどのように機能させていくか、今後社会が求める英語力を紐解きながらご説明頂き、特に印象に残った言葉として「正しい山に登らせる」というキーワードを与えて頂いた。逆算で物事を考えることで思考は深まるが、何よりもその目標が間違っただけではいけないということをお話しされた。本校教員が自身の教室内英語を振り返る契機を与えていただいた。今後も、英語科として「対話的」で「深い」学びの在り方を探っていきたい。

## 8 鳥取大学外国人教員による授業実施記録

実施期日 令和元年6月に各クラス1回（2時間連続）

目的 地域・世界とつながるグローバル・リーダーの素養として、国際理解や担当教員の専門分野について英語を用いた講義を受ける機会とする

講師 鳥取大学国際交流センター 准教授 グラシエラ クラビオト（メキシコ出身）  
鳥取大学国際交流センター 助教 シャーリー リーン（オーストラリア出身）

対象 1年生

内容 講師の先生が単独で授業を受け持つ  
1) 出身国についての紹介  
2) 専門分野についての紹介・講義

使用言語 英語

※実施日の詳細（確定）

6月 5日（水）…1-4（グラシエラ先生）（2、3限）

6月 6日（木）…1-1（シャーリー先生）（3、4限）

6月 7日（金）…1-2（シャーリー先生）（5、6限）

6月12日（水）…1-5（グラシエラ先生）（2、3限）

6月13日（木）…1-7（シャーリー先生）（2、3限）

6月14日（金）…1-3（シャーリー先生）（5、6限）

6月19日（水）…1-6（グラシエラ先生）（2、3限）

## 令和元年度「思索と表現」1年生における英語授業について

	教室1	教室2	教室3	教室4	教室5	教室6	教室7
通常授業	6/6 (木) シャリー先生	6/7 (金) シャリー先生	6/14 (金) シャリー先生	6/5 (水) グラシエラ先生	6/12 (水) グラシエラ先生	6/19 (水) グラシエラ先生	6/13 (木) シャリー先生
1年生の 取り組み	通常授業(2時間連続) (出身国の紹介等、グローバル課題の提示、解決方法等)						
思索と表現	4/17(水) 課題提示 7/3のフィードバック時に1年生がプレゼンするための課題を生徒に提示して頂く						
	7/3(水) フィードバック 午前中、事前に提示した課題について生徒がプレゼンを行うため、その内容や研究過程等についてアドバイスを頂く						

<b>シャリー先生</b>	<b>担当：8時間 (通常授業8時間)</b>
	通常授業： 4クラス分×2時間を担当(2時間連続、出身国の概要、グローバル課題の提示、解決方法等)
<b>グラシエラ先生</b>	<b>担当：11時間 (通常授業6時間、課題提示2時間、フィードバック3時間)</b>
	通常授業： 3クラス分×2時間を担当(2時間連続、出身国の概要、グローバル課題の提示、解決方法等) 課題提示： 7/3のフィードバック時に1年生がプレゼンするための課題を生徒に提示して頂く。 フィードバック： 午前…事前に提示された課題について生徒がプレゼンを行い、その内容や研究過程等についてアドバイスを頂く。

### 1年生 課題研究「思索と表現」活動予定表

4月	17日 (水) ①② (7, 8限)
	24日 (水) ③④ (7, 8限)
5月	8日 (水) ⑤⑥ (7, 8限)
	22日 (水) ⑦⑧ (7, 8限)
6月	12日 (水) ⑨⑩ (7, 8限)
	26日 (水) ⑪⑫ (7, 8限)
7月	3日 (水) ⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲ (終日) フィードバック
	10日 (水) ⑳㉑ (フィードバック振り返り)
	11日 (木) ㉒ (代表班による発表)
	㉓㉔㉕㉖ (午前) ポスターセッション
	㉗ (午後) ポスターセッション振り返り

## 9 生徒が参加した発表

### (1) 令和元年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム

標記の大会に、下記の会場と日程により生徒2名が参加した。本校生徒は、「A comparison of human-environmental relationships through studying Gibier in both Japan and Australia」をテーマに発表した。発表テーマの要旨は以下のとおりである。

#### 発表テーマ要旨

鳥取県では、農林水産物に被害をもたらしているシカやイノシシなどの野生鳥獣を有効利用するために、ジビエ料理として提供している。しかし、認知度や供給体制において課題を抱えている。オーストラリアでのカンガルーの観光業への活かし方や食肉としての利用についてフィールドワークを行い、鳥取県における地域資源の活用の仕方と比較検討した。解決策として「地元天然ジビエ」の消費拡大を提案し、高校生の視点から考察した。

全国の生徒や指導教員と研究内容について交流したことに加え、様々なSGH指定校の生徒による発表や生徒交流会に参加した。この学びを、次の活動につなげていきたい。

■会場 東京国際フォーラム（〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目5番1号）

■日程 2019年12月22日（日）

9:00～10:00 受付（ポスター掲示他）

10:00～10:30 開会式・全体説明

10:40～14:40 ポスターセッション、生徒交流会【テーマ別分科会】

15:00～15:50 生徒交流会【全体会】

16:00～16:25 ポスターセッション優秀校4校による発表

16:35～17:00 表彰式・閉会式

### (2) 令和元年度全国課題研究発表会「WWL・SGH×探究甲子園2020」

標記の大会に、合計3名の生徒が参加する。内訳は、研究成果ポスタープレゼンテーションに1名、研究成果プレゼンテーションに2名である。今年度も、研究成果プレゼンテーション発表部門に応募し、本選に出場できる25チームに選抜された。研究成果プレゼンテーション部門では、「新在留資格「特定技能」に関する外国人労働者の就労・生活課題とその改善策」をテーマとして、下記の内容について研究した成果を報告する。また、研究成果ポスタープレゼンテーション部門は、「The study on Self-esteem in adolescence」をテーマとして、下記の内容について研究した成果を報告する。

#### 研究成果プレゼンテーション部門要旨

2019年度前期の課題研究「思索と表現」の時間に、上級生たちと「外国人労働に関する制度の問題と改善案」というテーマで研究をおこなった。そこでは技能実習制度を中心に、外国人労働者をとりまく就労制度の問題点や生活上の課題を取り上げ、日本国内における労基署の権限強化、労働者の送り出し国における日本の制度・権利に関する学習、国費負担による日本語教室の設置や社会保障協定を活用した保障の充実等の改善案について提案した。2019年4月から外国人労働者受け入れについての新制度がスタートしたが、これに対して、技能実習制度から名目は変わったものの、低賃金や劣悪な労働環境といった